

問題演習 基本七法 2020

法学教室編集室 編

2020年12月発売/188頁/本体1600円+税
B5判/並製



問題演習
基本七法
2020



編集担当者から 『問題演習 基本七法』は、3年前から年間で刊行している演習書のシリーズです。法学教室の年度毎の演習欄をまとめたもので、基本七法分野について練られた設問（計84問）と丁寧かつ詳細な解説で重要論点の多くをカバーします。

“事例問題ってどう答えたらいいのだろう…”。“問題集も色々あるけどどれがよいの？”という悩みを学生のみなさんからよく聞きます。事例問題の答え方は、講義ではあまり教えてくれませんが、自然には上達しないものです。場数を踏んで、慣れていくことが重要です。

本シリーズは、数ある問題演習書のなかでも抜群のコスパで、最初の演習書として最適です。本書で訓練をして、定期試験や法科大学院入試、司法試験・予備試験に臨みましょう。

さらに、設問部分のみをまとめた「設問集」をウェブ上で無料公開していますので、試験を想定して、まずは設問のみと向き合う使い方もお勧めです。右のQRコードからアクセスしてみてください。(鈴木)



Point!

P 下の「演習の活用法」だけでなく「論点索引」も各分野掲載し、自学自習を助けます。

【分野と執筆者】 憲法：安西文雄 / 行政法：高橋信行 / 民法：原田昌和
商法：今井克典 / 民訴法：北村賢哲 / 刑法：亀井源太郎 / 刑訴法：松田岳士

演習の活用法

設問

しっかり読んで、考えよう
問いに答えるために、「事実関係の抽出」を繰り返すことで「問い」に設問に答えるためのポイントや重要な論点を抽出しよう。

● 設問の目的や問いの意図を捉えよう
● 設問の前提条件や条件を捉えよう
● 設問のキーワードや重要な論点を捉えよう

POINT

解答への第一歩
設問に答えられるように解答へのポイントを示しています。設問を熟読し、設問の目的や問いの意図を捉えよう。

● 設問の目的や問いの意図を捉えよう
● 設問の前提条件や条件を捉えよう
● 設問のキーワードや重要な論点を捉えよう

解説

解答例ではありません
解答例は、設問が本問に対して、基本的な内容から丁寧に説明されています。設問に対しては、設問の目的や問いの意図を捉えよう。本問の解答は設問の前提条件や条件を捉えよう。設問の目的や問いの意図を捉えよう。

刑事訴訟法 1

● 捜査手続
● 検察官の職務
● 検察官の権限
● 検察官の権限の範囲
● 検察官の権限の範囲
● 検察官の権限の範囲

参考文献

もっと詳しく知りたい
理解を深めるための文献を紹介しています。

ステップアップ

もう一歩学習を深めたい
設問を解いた後、一歩踏み込んで、さらにもっと深く学びたい。設問の事実や条件を捉えよう。設問の目的や問いの意図を捉えよう。

次回の設問

次の設問は？
学習が進んでいくと、次はどのような設問が来るのか。設問の目的や問いの意図を捉えよう。